

ごつくん特急便。



普段はゆず商品が入る段ボールが、今日は競技道具に変わります。以前は秋に開催してました保育・小中学校の合同運動会ですが、馬路村でも秋は少し暑さが目立つようになりましたので5月での開催となりました。農協で一番大きな段ボールを6つ重ねてバトン代わりに走る、その名

も「ごつくん特急便」。意外となかなか難しく、大人チームも参戦しましたが中学生チームに圧倒的な差をつけさせられることとなりました。徒競走の前には一人ずつ名前が呼ばれ、我が子に限らずみんなを応援が村運動会の当たり前。おじいおばあからの激も飛び、人数は少ないながらも熱い運動会の日となりました。



ゆずの村企画 計画中です。

実は「ゆずの村ほん酢」は発売開始から今年40年。楽しんでもらえるようないろんな企画をこっそり計画中です。ゆずの村の今後に、乞うご期待。



温泉前の川で まっています。



村の中心部にある馬路温泉前の川が村の子どもたちや、観光で来てくれたお客さんの遊び場となります。そこまでの深さがなく、流れもたいして速くないので安心して遊べる夏の村スポット。もし馬路村にこの夏来られる方は、足だけでも川に浸かってみてください。きっと村と繋がることができるはずです。

山村留学生、 募集中。

馬路村ヤナセ小中学校では、自然の中のびのびと暮らすことができる山村留学制度を平成9年より活用し、たくさん山村留学生がともに暮らしてきました。現在募集中につき、田舎に興味のある方はぜひぜひ、お問い合わせください。
「お問い合わせ先 馬路村役場ヤナセ支所 電話 0887-43-2211」

馬路温泉

ツルツルのお湯です。
ゆっくりすこやかにまませんか。
宿泊やお問い合わせはこちら
0120-44-2026

編集後記

村の道を歩いてみると至る所で見かけるのが薪。村に来て一時、私も薪風呂がいった家を借りて住んだことがあり、冬に入る薪風呂は体の芯からの温まりを感じましたが、汗をいっぱいかき苦労した夏の薪割りのあとの風呂は何とも言えない気持ちよさがあった記憶があります。効率や利便性などとは程遠い薪割りですが、その効率性や利便性ではない「何か」にこそ豊かさがあるのではないかと我々は思っています。この夏、観光で馬路村に来てくれる方、村に便利さはありませんので、そのあたりあしからず。

うまじむら新聞

令和8年 夏
発行
馬路村農協

スマホから上に目線をあげよう。

きっと、空に夏がきたことを気づくはず。



勝手にもってけシリーズ。



家の横にちよつとした季節の野菜などを植えているのをよく見かけますが、この季節は「しそ」ですね。わざわざ断りを入れなくても「いつでもどれぐらいても勝手にもってけ」と事前に向こうから言われ、ありがたく勝手に持っていく食卓に使わせていただきます。まじりに「勝手にもってけのしそ」は何年も続いています。

村の定番BBQ、あゆ。



村の夏もバーベキューをする機会が多いですが、肉ではなく、まずは鮎からというパターンもよく出くわします。馬路の安田川の鮎は、一番うまい、とおんちゃんたちが豪語し食べればなるほど、と納得する透き通ったような味です。肉よりも鮎ということも当たり前になるわけで、各家の冷凍庫は鮎のストックがあるのも常識です。もし馬路の鮎を食べたい方、馬路温泉で食べられますので、この夏ぜひぜひお越しください。焼くのにちよつと時間がかかるため、事前の予約がおすすめです。

農協ユニフォームがそのうちに。



農協スタッフが着るユニフォームもそろそろ変え時がきており、一日の3分の1も羽織るものなので、しっかりと意味のあるものにと、今回ご縁があつて支援施設でデザイン活動もおこなっている方々に制作をお願いすることとしました。



村を散策してもらい、感じたまに描いて出てくるアイデアや角度の面白いこと。後日出てきたユニフォームのデザイン第一案にはみなで驚愕したところです。そのうち完成予定ですので、もし村に来て工場見学もされる際は、農協スタッフのユニフォームに注目してみてくださいませ。



ちよつと課外授業 ムカシトンボの話

いることから生きた化石と呼ばれるトンボだそう。水のきれいな溪流にしか生息していないそうで、ムカシトンボのいる環境は長きに渡り、安全で美しい川がある証明であるとのこと。今年に入り馬路村にもいることが確認され、今回子どもたちにも参加してもらい、ちよつと課外授業としてムカシトンボの観察隊を結成いたしました。専門家として2名の先生をお呼びし、その内の一人、杉村先生はトンボ研究者として広く活動しており、心強いサポート役。その先生の指導の下、早速村の中心部から徒歩1分の溪流に入り、川の岩をめぐって調査開始。何かおるおると子どもたちも網ですくいながら調査を続けると、ムカシトンボのヤゴを発見。確かにおるんやねえと皆集まり興味津々に見ておりました。その後も道での成虫調査も行いました。その日は気温も高かったことから成虫は見つかりませんでした。普段あまり気にし



今回の子どもたちとの調査で見つけることができたムカシトンボのヤゴ。5年ほどはこの幼虫の姿で川の中に。



たことがなかったトンボの生態や、先生の知識に皆おもしろがり、終了時間がきても課外授業は終わることがありませんでした。今回の調査でも村の中のムカシトンボの存在がわかりました。ムカシトンボを通して我々がオーガニックのゆずづくりを続ける意義を改めて感じさせられました。「昔は良かった」自然環境についてはその言葉が出ないような村づくりが必要で、農業が担う役割も非常に大きいと思います。ムカシトンボがこの村でいつまでも暮らせませすように。



からくち、登場。

ゆず商品の中でも実は人気の「今日はやきにく。馬路村」。この夏、その第二弾として辛口が登場します。この夏の食卓やバーベキューなどなどあらゆる場面でお使いください。



ゆず畑では、毎日草刈り。みなさんも熱中症対策はしっかりと。

